

2022年12月16日

報道関係各位

一般社団法人 日本電気計測器工業会 (JEMIMA)

電気計測器の中期見通し2022～2026年度版 発行のお知らせ

2022年度の電気計測器全体の売上見込みは前年度比+0.0%、

2022～2026年度の年平均成長率は+1.3%増加の見通し

一般社団法人日本電気計測器工業会 (JEMIMA、会長 曾禰 寛純) は、当工業会の統計データをもとに2026年度までの電気計測器の需要見通し調査を行い、冊子「電気計測器の中期見通し2022～2026年度」を発行いたしました。

【概要】

電気計測器全体 (国内売上+輸出) の2021年度は、関連するほとんどの業種で新型コロナウイルスによる影響からの回復がみられ、特に半導体製造装置に関係する製品群で見込みを上回り、新型コロナウイルスの影響を受ける前 (2018年度) の水準を超える大幅増となりました。全体としては6,016億円 (前年度比+1.3%) の見込みに対して、実績は6,741億円 (前年度比+13.6%) となり、前年度比+805億円の大幅増加になりました。

2022年度は、新型コロナウイルス流行がもたらした深刻な景気低迷から回復に向かい、カーボンニュートラルやSDGsの達成に向けた投資が増加する一方、海外のロックダウン、ロシアによるウクライナ侵略、為替変動、半導体不足など不安定な要因が残ることから、6,741億円 (前年度比+0.0%) の横ばいを見込みます。

2023年度以降は、電力確保、カーボンニュートラル、SDGs達成に向けた投資の加速などの増加要因に対して、ロシアによるウクライナ侵略、材料高騰、再生可能エネルギーの普及による投資のシフトなどが減少要因になることから、2022～2026年度の年平均成長率を+1.3%と見通しました。

海外拠点の売上を含む「国内売上+輸出+海外拠点売上」の2021年度実績は、前年度比+12.4%の8,712億円で大幅増となりました。2022年度は、前年度比+0.5%の8,753億円で横ばいを見込みます。2023年度以降は、新しい分野への投資が加速され、2026年度は2021年度比+7.4%増加の9,360億円、2022～2026年度の年平均成長率は+1.7%で推移すると見通しました。

本日発表の「電気計測器の中期見通し2022～2026年度」は有料で頒布いたします。

発行刊行物：書籍名「電気計測器の中期見通し2022～2026年度」

発行日：2022年12月16日

頒布価格：一般：¥11,000- (税込・送料別)

JEMIMA会員：¥3,300- (税込・送料別)

「電気計測器の中期見通し2022～2026年度」発行・発表会の開催概要

主催：一般社団法人日本電気計測器工業会 調査・統計委員会

開催日時：2022年12月16日 (金) 13:30～16:55

開催形式：Cisco社 Cisco Webex Meetings (Web会議)

「電気計測器の中期見通し2022～2026年度」の主な内容

【掲載内容】

序

第1章 本書の使い方

第2章 中期見通しの概要

第3章 電気測定器（一般測定器）

第4章 P A計測制御機器

第5章 電力量計（計器）

第6章 環境計測器

第7章 放射線計測器

第8章 工業会自主統計

